

珠洲市特別職報酬等審議会 会議録

- 日 時 令和元年7月29日（月） 午後1時～2時
- 場 所 市庁舎 3階会議室
- 出席者 上野 哲司委員（一般社団法人 珠洲青年会議所理事長）
乙谷 衛一委員（住民代表）
表 啓一委員（社会福祉法人 珠洲市社会福祉協議会会長）
皿井 竹夫委員（珠洲ロータリークラブ会長）
新谷 栄作委員（石川県漁業協同組合すず支所運営委員長）
刀祢 秀一委員（珠洲商工会議所会頭）
中板 睦子委員（珠洲市婦人団体協議会会長）
中市 勝也委員（一般社団法人 珠洲建設業協会会長）
宗末 勝一委員（住民代表（珠洲市区長会連合会会長））
- 欠席者 表野 悦夫委員（珠洲市農業協同組合代表理事組合長）
- 事務局 総務課長 加賀 真樹
総務課長補佐 高田 吉明
総務課長補佐(兼)行政管理係長 坂尻 寛志
- 議 題 議員報酬の見直しについて

ー以下、発言内容ー

【開会】

【市長挨拶】

（泉谷 満寿裕市長）

今回の審議会は、珠洲市議会議員の報酬の見直しについてご議論をいただきたい。

近年、地方議会議員のなり手不足が全国的に問題となっておりますし、珠洲市においても同

様であります。この4月21日に執行されました市議会議員選挙におきまして、議員のみなさん自らが2名の定数削減を決められたのであります。定員12名に対し13名の立候補がございまして、かろうじて選挙戦となったところです。議員のみなさんの高年齢化も進んでおりますし、今後のことも考えますと、ここで少し見直す時期にきているのではないかと思います。

議員のみなさまの報酬ですが、行政改革のなかで平成19年4月から25,000円を減額し、それ以降、据え置いたままとなっております。先ほど申しましたように直近、2名の定数削減をなさっていただいたところです。平成19年当初には18名いらっしゃったと思います。18名が15名になり、14名になり、この度12名ということがございます。そしてこの間、消費税も5%から8%となって、この10月1日からは10%となります。私の思いとすれば、せめて消費税アップ分の約5%の増額は、大義名分としては成り立つのかなと思いますし、さらには平成19年4月引き下げの25,000円を復元するという考え方もあると思います。この2つの案を中心にご議論をいただきたいと思います。もちろん、それ以外の考え方もあると思います。できるだけみなさんの忌憚のない議論をお出しいただきたいと思います。

しかしながら一方では、珠洲市の財政は依然として厳しいことには変わりはありません。今日の昼のNHKニュースで普通交付税に臨財債をたした令和元年度でございますけれども、48億3,200万円ということで、昨年度と比べますと約3,000万円のマイナスとなります。来年度、令和2年度には5年ごとの国勢調査が実施されます。人口減少となりますと、令和3年以降の交付税配分も一層厳しい状況になろうかと思います。こうしたこともふまえてご議論をいただきたいと存じます。

珠洲市議会議員の報酬を決めるというのは、荷の重い役割だと思っておりますが、それにふさわしい方々にこの委員にご就任いただいたと思いますので、活発なご議論賜りますようお願いを申し上げます。

(公務のため、市長退席)

【特別職報酬等審議会条例について事務局から説明】

【審議会会長選出】

(委員) 刀祢さんにしてもらえばいいのではないか。

〔異議なし〕

【職務代理の指名】

(会長) 職務代理は乙谷委員、お願いします。

【審議】

(会長) 市会議員、町会議員になる人が少なくなっている。市議会議員のみなさんも自分の身を削りながら、定数を削減し現在の定数になっているのではないかと思います。本日の審議会ではみなさんの忌憚のないご意見をお願いします。

(事務局) (資料により議員報酬の改正案等を説明)

- 1 議員報酬は平成 19 年 4 月から減額改正されて以降、見直しを図っていない。近年の社会情勢や後継者確保の環境整備が必要であること。
- 2 平成 31 年 4 月の一般選挙から議員定数を 2 名削減し、議員歳費の削減を実施済みであること。
- 3 議会改革特別委員会にてこれまで議論を重ねてきた議会改革により、議員定数を削減したが、議員一人当たりの業務量、果たす役割は拡大していること。以上の 3 点から総合的に判断し、議会議員報酬の額の引き上げを行うもの。事務局からは 3 つの改正案（引き上げによる影響額を併せて）を提示
[案①] 月額 15,000 円の引き上げ（かほく市と同額）
[案②] 月額 20,000 円の引き上げ（約 5%程度）
[案③] 月額 25,000 円の引き上げ（H19.4 の削減前の水準）

その他、県内 11 市及び能登町及び穴水町との議員報酬比較、議員数比較、経常収支比率や実質公債費比率をはじめとする財政状況比較表についても補足説明。

(会長) ただいま事務局より改正案①、②、③の説明がありました。各方面からのご忌憚のないご意見等よろしくお願ひします。

(委員) 平成17年の行革で貝藏市長の時に削減されたような気がするが、平成19年が正しいのか。

(事務局) 貝藏市長の時は、本俸ではなく期末手当の削減です。

(委員) 夕張のようにならないようにということで、各課でもマイナスシーリングや政務活動費も2万円が1万円にカットされたような記憶があるのですが。

(事務局) 今回の資料は議員数を14名と12名の比較しか出していないので、委員が言われるようなものについては、調査していません。

(委員) 議員報酬も羽咋を見習ってきていたように思います。私は個人的には議員報酬はもとに戻すべきと思っている。10何年カットされたままなので。

(委員) 上げるということですよ。

(事務局) 私どもの案は引き上げということで、市長がみなさんにご意見を伺うということです。しかし、実際にあげるかどうか、引き上げ幅はどうするかといったことは、この審議会の中で議論していただくという話になります。

(委員) 資料説明で質問しますが、資料4ページの議員2名減った分11,829,200円というのは、これは年間の金額か。

(事務局) 年間分です。

(委員) 飲み込んでしまうということですね。

以前の報酬引き下げは、議会ではこういう審議会の手続きなしに議会自らの判断で一律25,000円を下げており、既に10数年たっている。次に冒頭、市長もおっしゃるように、2名定数削減しても1名多い13名の立候補、その4年前は14名の定数に対しプラス2名の16名で、なり手がいないとか、裏をかえすと魅力がないという考え方もあると思います。報酬を2万円上げれば、30人も40人も立候補されるということにはならないということもあると思います。議会議員の活動はわれわれには見えにくい、市役所へ来るだけが議員の活動ではないので、議

員報酬はいくらが適正なのか見えにくいという部分があります。

今回の議員報酬の引き上げの案では、2名減で総額1,200万の減があるので、500万円上げても400万円上げても、財源としては引き下げになるということなのですが、市民感情を考えるとなかなか難しい面もある。ただ根拠となると難しいし、市会議員のみなさんにもっと活動してほしいという意味合いで3つの案のうち、真ん中の2万ということなのかなと思います。

(委員) 約10年前に下げたということからすると、来年や再来年またという話にはならないので、今あげるとすると5年や10年後までこのままということはあるのではないかな。

(事務局) あまり頻繁にという話にはならないと思います。

(委員) みなさんご意見何かないですか。何かありませんか。

(委員) なり手がいないということは、魅力がない。魅力がないのなら、魅力があるようにすればいいのではないかな。人口減少とか他市町との比較も分かるのですが、逆に珠洲は、ここでずば抜けて上げさせてもらったうえで、市民に納得してもらえるように、これだけ働いているのだから、上げてもいいと思ってもらえるような活動にすればいいのではないかな。例えば、珠洲市の弱っていること、人口減少、経済活動などのいろいろな話をする時に、常に市会議員が集まり、気軽に相談できるように議員活動をしてもらい、市民に理解してもらえるようにすればいいと思う。もとの状態に戻すだけでなく、人口減少や高齢化対策で成果がでたら、さらに上乘せするようにしたらいいのではないかな。

(委員) 慎重になるのも大事ですが、500万円で成果がでるなら、委員が言われるようなものもいいように思います。

(委員) 資料9ページの公債費比率を見ると、まあ、そうそう大きく上げるのはどうかなと思います。なり手不足という話はありませんでしたが、報酬を上げるだけでなく、議員としてこういう活動で、珠洲市に効果をもたらしたということがあれば、やってみてもいいと思う人がいるかもしれません。報酬を上げることは、市民がどう思

うかということや根拠も大切だと思います。期末手当で民間の成果主義みたいなものできないのか。

(事務局) 国に準じて実施している。

(委員) 議員さんの期末手当を評価しようとする、とん挫すると思います。職員については、がんばった人とそうでない人に差をつけるというのは可能ですが、議員の場合は一律なので難しい。

(委員) 市民の数に対して議員の数がどうなのかと思う。金額よりも議員の数を問題視しているように思っている。市会議員は大事な役割なので報酬を25,000円上げることも、その倍ということもいいと思うが、あと2人くらい減らすということを進めて、議員としての仕事ができるのならいいと思う。ただ、今は定数の話ではないので、報酬は上げてもいいのではないかな。

(委員) 今の話では5万円でも10万円でも上げる案を作るということですかね。

(委員) 議員にも定年制を導入しないと若い人は出てこないと思う。

(委員) 議員の年代によって所得が違ったものにして、若い時はたくさんあたって、年がいくと減額されるというのがいいと思う。

(委員) 報酬なので生活給とは違うのですよね。

(委員) 議員の仕事が見えにくのですが、報酬を上げていいと思いますし、私は改正案の③でいいと思います。

(委員) 事務局ももう少し高いのを作っておけば良かった。今のままでは改正案③が高く感じるけど、③にしたところで10年前と一緒なんですよ。30,000円と35,000円とかあっても良かったのかなと。

(委員) 10年前とは社会情勢が変わってきているので、上げていいのではないかと思います。

(委員) 事務局から提案のあった案の中で、③案が一番いいと思う。もう1万も2万も上げようとする、また、すんなりいかないこともあると思う。議員さんも14名から12名に削減になって、議員さんは名誉職ということで、われわれもそのような目

でしっかりと見ないといけない。ということで、私は③案を推したいと思うが、どうでしょうか。

(委員) ただ、そうっと少し上げたという奥ゆかしいのもいいと思うが、これだけ上げたんだから民間のような費用対効果のような考えも必要だと思う。

(委員) 議員の報酬だけの人には多くという話ではなく、一律で上げるべきだと思うし、私は③案でいかがですかと思います。

(会長) 今後の議員の活動に期待したいということですね。そのほか何かありませんか。

(委員) 一般の市民から見ると議会の開会中の活動は分かるけど、閉会中の活動がなかなか分からないので、オープンにしていればいいと思う。

(委員) 私は、減額された原点に戻すべきだと思う。それに答申を出す時は、今ほど出たいろいろな意見も添えて、頑張ってくださいようにしたほうがいいと思う。

(会長) 皆さん前向きな意見ありがとうございました。改正案の④があっても良かったと思います。そのほか何かございますか。

(委員) 市会議員になられる方の環境を整えると同時に、その分だけ、われわれ珠洲市のためにご尽力いただければ、この金額以上にありがたいと思います。

(委員) 会長が言われるようなこの3案以上の案を作るのか。

(事務局) ということになりますと、この場ではなく、改めてお示しすることになります。

(委員) この審議会で作るということか。

(事務局) この審議会は市長の諮問機関ですので、最終的には市長が判断して議案として提出することになります。お示しした案は近隣市町との均衡や珠洲市の体力等を勘案しまして選択肢として提案しました。例えば、この審議会の結論として、この幅の中でご議論いただくことになろうかと思います。

(委員) 心情的にはもっと上げて、もっともっと頑張るということは分かるのですが、現実を見た時にはこんなところではないかということだと思います。

(委員) 夕張のようにならない限り、下げる見直しというのはないと思います。今、上げててもまたほかのところが見直してくるので、またビリになると思います。

(委員) 能登町からみるとまだ恵まれている。能登町なんかは気の毒なくらいの報酬だと思います。

(会長) それでは、ここままで案③が多いように思いますが、皆さんいかがでしょうか。

〔挙手により、8名中7名が賛成（会長除く）〕

(会長) それでは賛成多数ということで、③案に決定します。議員の数が減ってもエリアは変わりありませんので。市議会議員のみなさんに頑張っていたきたいと思えます。みなさんありがとうございました。

(事務局) 以上をもちまして、審議会を閉じさせていただきます。刀祢会長から泉谷市長に答申させていただきます。ありがとうございました。